

令和8年度からの全員給食に向けたサウンディング型市場調査（3回目）

<実施結果>

<実施概要>

1. 対話期間

令和5年6月19日（月）から令和5年6月23日（金）まで

2. 対話参加者数

14 法人もしくは法人グループ

3. 主な対話内容

(1) 事業への参入意向

(2) 区分ごとの事業スキームに対するご意見

(3) 横浜市による食材の一括調達、アレルギー代替食の提供、食缶による汁物の提供、おかわり用給食など、新たな取組に対するご意見

4. 対話結果

主な意見として、以下のものがありました。

<A区分について>

- ・ 現在のスキームで問題なく、ぜひ参加したい。
- ・ 工場の運営にあたっては、人材の確保が課題である。
- ・ 運営開始からの貸付期間として考慮をお願いしたい。
- ・ 5年ごとの運営委託費の見直し及び委託料を施設整備費と運営委託費にわけた契約をお願いしたい。
- ・ 全市分のアレルギー代替食の調理は問題ないが、B区分への配送は困難で、市域の半分程度が現実的である。
- ・ 令和8年4月操業開始となるとスケジュールが非常に厳しい。

<B区分について>

- ・ 契約期間が5年間では工場の建築や設備投資の回収ができないため、A区分同様、15年間の契約をお願いしたい。
- ・ 既存の工場でのアレルギー代替食の提供は、設備の配置スペース的に実施が困難である。
- ・ 市内に工場を新設する際は、アレルギー代替食の専用施設の整備が可能である。
- ・ 委託費については、物価変動スライドを採用してほしい。
- ・ 事業の参加にあたっては、損益分岐点となる食数があり、これを下回ると受託が難しくなる。

<新たな取組について>

- ・ 食缶の方が盛付のスタッフが必要なくなるため製造コストを圧縮できる。
- ・ ごはん食缶も汁物食缶も配送・配膳については大きく変わらない。
- ・ 食缶の洗浄、管理に、時間や設備、人手を要する。
- ・ 食缶を消毒する際に熱風保管庫を使用するなら、設備投資が必要になる。

- ・ 食缶での提供となった場合、食缶の洗浄、消毒保管機等の調理設備機器の調達、設置面積増がコストアップの要因となる。
- ・ 食缶の洗浄、消毒保管のため、既存施設では整備や建物の改修が必要となることから、コスト面が課題である。
- ・ 価格・質の均一化になるため、横浜市による食材の一括調達には賛成である。

<令和8年度以降の実施業務について>

- ・ 1クラス41名以上のクラスがあると配送計画が大幅に変わる可能性がある。
- ・ アレルギー代替食の提供については、提供する事業者、受け入れる学校側の双方が十分にアレルギー対応の運用で連携を図る必要がある。
- ・ 全校に配膳室を完備してもらいたい。
- ・ 配膳室内にロッカー等を設置していただきたい。
- ・ 提供可能食数までであれば、給食室改修期間中の小学校への提供は問題ない。

<追加の事業者公募（令和6年度～令和7年度）について>

- ・ 令和7年度から参入したいが、令和7年度の1年みの受託のみでは、工場を新設することはできないため、令和8年度からの業務が受託できなかった場合は辞退したい。
- ・ 事業者の決定から工場の改修および車両の手配をしても、間に合わない。

以上